



特集

## 未来を担う 子どもたち

見ごたえあふれるパラスポーツの世界  
デフ陸上

デフリンピック、日本で初開催。  
十種競技で出場を目指す

# 未来を担う



日本で初めて“こども”の名前を冠した「こども家庭庁」が発足し、社会全体で子どもや子育て世代を支えていこうという機運が高まっている。未来を担う子どもたちが自分らしく生きることができ、

子育てもしやすい社会の実現のため、多くの取り組みが行われている。

今号では、こども家庭庁の初代大臣を務めた小倉将信さんにお話をうかがうとともに、  
子どもと子育て世代に向けて行政や企業が行う様々な事例を紹介する。

# 子どもたち



① 鋳型から出した製品を磨く職人。一つひとつ研磨機で丁寧に磨いていく  
② 持ち手や蓋など、部品の数が多い  
③ 出来上がった鉄瓶。つややかな鋳肌の黒が美しい  
④ 溶けた鉄を鋳型に慎重に流し入れる

江戸時代から岩手県・水沢（現奥州市）で、生活道具である鍋や釜などの南部鉄器をつくってきた「及源铸造」。その魅力は、なんといつても黒くつややかな美しい鋳肌だ。職人たちの確かな技術が、鋳肌の美しさを生み出している。

鐵器は、製品をデザインし、砂を高圧で固めた鋳型に高温で溶かした鉄を流してつくる。「及源铸造」社長の及川久仁子さんによれば、「型はとても重要」だという。「型の砂の粒子が、鋳肌の状態を決めるからです。職人は砂を握り、水分量を見ながらつくります」。粗

度ほどの中温で焼き締め表面に酸化皮膜をつくっている。「及源铸造」の方法が異なり、铸造後、900度ほどの中温で焼き締め表面に酸化皮膜をつくっている。「及源铸造」では、その技術を鍋やフライパンなどに応用し、これまでにない鋳肌の南部鉄器を開発した。

及源铸造株式会社  
**及川久仁子**  
おいかわくにこ

岩手県生まれ。短大卒業後、デザイン研究所で勤務。1984年及源铸造に入社し、铸物の型造りから始める。2007年5代目社長に就任。「鍋釜屋」としての矜持を持ちつつ、常にアンテナを立てて、時代の雰囲気をつかむことを忘れない。



## 日本カルチャーの伝承者たち

後世へつながりゆく

02 後世へつながりゆく  
日本カルチャーの伝承者たち  
Vol. 19 及川久仁子 後編

Feature

03 未来を担う  
子どもたち

16 大いなる哲学を持ち、  
エシカルな食の場を提供する  
Sustainable Restaurant  
Vol. 19  
きじま みなとみらい店

17 イオン 幸せの黄色いレシートキャンペーン  
壊れたおもちゃ、  
私たちが治します!

18 見ごたえあふれるパラスポーツの世界  
デフ陸上

19 シェフパートナーズ料理塾より  
Vol. 19  
セゴギキムチチョンゴル  
(牛肉と豆腐のキムチ鍋)

**AEON MAGAZINE**  
December 2023 Vol. 83

発行日：2023年11月15日  
発行所：イオン株式会社 コーポレート・コミュニケーション部  
〒261-8515 千葉県千葉市美浜区中瀬1-5-1  
TEL: 043-212-6061  
ホームページ: <https://www.aeon.info/>  
※本誌の一部を抜粋した英語版、中国語版を下記ホームページよりご覧いただけます。  
英語版 <https://www.aeon.info/en/>  
中国語版 <https://www.aeon.info/cn/>

本誌上における社外からの寄稿や発言は、必ずしも当社の見解を表明してはいません。

**表紙の和菓子**  
子どもと楽しむ伝承の遊び

作：井上 豪（東京マイスター、優秀和菓子職）  
梅花亭 東京都新宿区神楽坂6-15  
<http://www.baikatei.co.jp>

すぎず、細かすぎず。そのちょうどいい具合を職人の手が見極める。こうしてつくられた型は、古いものも大切に残しているため、1000を超えるという。

出来上がったばかりの鉄器の色は、グレーなのだ、と及川さんは言ふ。南部鉄器の黒色は、鋳止めの色なんです。鍋や釜などは、昔は漆を使って鋳止めしていましたが、今は漆と成分が似ているカシュー

ナツの殻から採取した樹液を使つた合成樹脂塗料を塗っています。いっぽう、鉄瓶では鋳止めの方法が異なり、铸造後、900度ほどの中温で焼き締め表面に酸化皮膜をつくっている。「及源铸造」は、その技術を鍋やフライパンなどに応用し、これまでにない鋳肌の南部鉄器を開発した。

15年前からは、伝統的な手法で鉄瓶をつくる職人の育成にも力を入れている。「南部鉄器の産地として、新しいものに挑戦すると同時に、伝統も守っていきます」。温故知新。これからも進化する南部鉄器の未来が見える。

この冊子はイオンの情報誌です。  
Aeon(イオン)はグループの総称です。



「ニどもまんなか」の社会実現に向けて

2023年4月、「『どもまんなか』の社会を実現するために『『ども家庭庁』』が発足した。

今、日本の子どもや若者を取り巻く状況や課題に対し、国としてどのように取り組んでいくのか。子ども家庭庁の初代大臣を務め、現在は自民党の副幹事長である衆議院議員小倉将信さんにお話をうかがった。

日本は子どもの数こそ減つていま  
すが、児童相談所への児童虐待の通  
報件数（2022年度）や不登校児  
童・生徒数（22年度）、いじめの件数  
(22年度)、子どもの自殺者数（22年）  
は、過去最多となっています。経済  
的に困窮している子どもや若者も少  
なくありません。

こぼした現状を踏まえ、すべての子どもや若者に寄り添い、誰一人取り残さず支援するために設立されたのが「こども家庭庁」です。各省庁の垣根を超えた子どもや若者政策の司令塔となり、子どもや若者の視点を取り入れた政策を実行します。

# 安心して 子どもを持つ社会に

子どもを持つ社会に

場面に出合つても、顔を顰しかめるのでなく、笑顔で「大丈夫ですよ」「気にしないでいいですよ」と伝えられる社会がよいと思いませんか？ 小さなことですが、こうしたことを一つひとつ積み重ねていけば、安心して子育てができる社会になるのではないでしょうか。

## 子どもや若者の 声に耳を傾ける

「…ども家庭庁のもうひとつの中は、子どもや若者への支援です。

今日本の子どもや若者の一番の課題として私が考えているのは、自己肯定感の低さです。幼い頃から自分の考え方や意見を表明する機会が少なく、また意見を言つても大人に受け止めてもらえないことが、自己肯定感の低さ、自信のなさにつながっているのではと考えています。

大臣になつてから多くの子どもや若者と接してきました。虐待のトラウマに苦しんでいる子、不登校に悩まつとも夢をつかんだ子、自殺願望から立ち直った子、障がいがある子児童養護施設で育つた子……。彼らの話や意見をしつかり聞いているとだんだんその顔が晴れやかになり、よい表情になつてきます。

子どもや若者が自分の意見をはつきりと表明し、大人がしつかりと聞く

実現したい。そのために、①若い世代の所得を増やす、②男女ともに仕

事と育児の両立ができるよう社会構造や社会意識を変える、③ライフスタイルに応じて切れ目のない支援を行う、という3つの基本理念を掲げています。

①を実現することで、経済的な理由で子どもを諦める人は減るでしょう。今年9月に岸田首相が発表した「年

「取の壁」の解消は、若い世代の所得向上や人手不足の解消を

目的としていて、少子化対策の中でも議論されてきたもので  
す。

子どもや若者、子育て世代の声に耳を傾け、受け止める。そこから「こどもまんなか」の社会が始まります。



衆議院議員、初代こども政策担当大臣  
**小倉 將信さん**(町田市選出)

おぐら まさのぶ●日本銀行勤務後、2012年衆議院議員選挙初当選、以後3回衆議院議員選挙に当選。22年内閣府特命担当大臣（少子化対策、若者活躍、男女共同参画）に就任し、こども政策、共生社会、女性活躍、孤独・孤立対策を担当。23年4月～9月までこども家庭庁の初代大臣を務める。著書に『EBPM（エビデンス（証拠・根拠）に基づく政策立案）とは何か—令和の新たな政策形成』（中央公論事業出版）がある。

「子どもの権利条約」に定められて  
いるように、子どもでも政治や政策  
に意見を述べる権利があります。子  
どもや若者も社会の一員だというこ  
とを、私たち大人も理解しなければ  
いけないのでしょうか。

子どもや若者をめぐる課題が複雑  
化・多様化している今、行政だけで  
課題を解決することはできません。企

業やNPOなど様々な主体が同じテーマで、ブルに着いて連携し、子どもや若者が課題を解決することが望ましいと考えています。こうした動きが広がっていくれば、世の中は変わると確信が私にはあります。今は大臣という立場を離れましたが、子どもや若者がまんなかにいられる社会の実現に向けて、これからも活動していくたいと考えています。

# 北海道安平町は 子ども教育を 一番に考える町



北海道安平町  
<https://www.town.abira.lg.jp/>



はやきた子ども園の園庭にあるサイロは、町内にあった日本最古級のサイロの木材を使い、実物の3分の2の大きさで再建した

北海道、新千歳空港から車でおよそ20分ほどの位置にあり、日本有数の馬産地のひとつとして知られる安平町。近年、町を挙げて子育てや教育に力を入れ、注目を浴びている。掲げるスローガンは「日本一の公教育を目指すまち」だ。

**人間の基礎となる力を付ける教育**

子育てや教育を町の重要な政策としている安平町。2017年に発表した「第2次安平町総合計画」で「将来にわたって子どもの声が地域に響き、若者・子育て世代で賑わうまち」と、今後10年間の町の方向性を示している。「子どもたちには、学力だけではなく、人間力の基礎となる非認知能力<sup>※1</sup>を身に付けさせたいと考えています」と安平町教育委員会事務局学校教育グループ主幹の三上泰明さんは語る。

そんな安平町の公教育の始まりは子ども園だ。町内にある子ども園のひとつ「はやきた子ども園」を訪れた。

広々とした園庭の遊具はすべて手づくり。畑があり、馬もいて、子どもたちは裸足でその間を走り回っている。「子どもたちの生きる力やチャレンジする心を育てていきたい」と語るのは、園を運営する学校法人リズム学園の学園

理事で、子ども園の園長も務める福田剛さん。地域とのつながりも大切にしていて、園庭の整備や遊具づくりは保護者や地域の人々とともに行った。「子どもたちを見守り、育てていこうといふ意識が強い地域です。その力を借りながら、子どもたちが育つ環境をつくっていきたい」と語る。

## 地域に開かれた義務教育学校

子ども園卒園後、子どもたちが通うのは23年4月に開校した小中一貫の義務教育学校「安平町立早来学園」だ。

この学校が生まれたきっかけは18年に発生した北海道胆振東部地震。安平町は大きな被害を受け、中学校は使用

できなくなり、3つの小学校は被害とともに老朽化も課題となつた。そこで、19年に「新しい学校を考える会」を立ち上げ、目指す学校像を町の人たちと一緒に考え、復興のシンボル事業として、すべてが一緒になる義務教育学校をつくることが決まった。その場には大人だけでなく、子どもたちの姿もあつたそうだ。「これこそがCFCI<sup>※2</sup>だなと思いました」と三上さんは当時を振り返る。

CFCIとはユニセフが進める「子どもにやさしいまちづくり事業」のこと。安平町では地震の前から「子ども権利条約」を遵守するという意思のもと、子どもが当たり前に意見を言い、その声がまちづくりに反映されること、



はやきた子ども園の園庭には、アスレチック遊具やおままごとができるテーブルとベンチ、入って遊べる小屋などがある。帽子の色が異なる(学年が違う)子どもたちが自然に混ざり合って遊ぶ



そして子どもが町の活動に活発に参加すること、安心して遊べることなどを大切にまちづくりを行ってきた。その成果を三上さんは感じたといふ。

「新しい学校を考える会」が求めたのは、地域とのつながりと教育効果の高さ。それを実現させるために、安平町は、学びの場づくりに知見のある(株)教育環境研究所と、新しいデジタルコンテンツを次々と発表しているチームラボ(株)と協力。チームラボは、震災後から復興プランティアで安平町に来て、つながりがあった。

完成した早来学園は、約5万冊の蔵書を誇る図書室と公民館を兼ねた、町



上／馬産地として、馬に慣れ親しんでほしいと馬を飼っていて、乗馬もできる下右／裸足で遊ぶのはいつもの風景 下左／園長の福田剛さん。トイレや食事、遊びといった生活をベースに様々な経験を通した教育を心がけています

ボの協力で実現した。

教室はすべて形や大きさが違ひ、備品なども教室ごとに異なる。「画一的な教室にしないことで、9年間を旅する教育次長の永桶憲義さんは語る。「建物だけでなく、小学5年生以上の授業時間と同じにして教科担任制を取り入れ7年生への接続をスムーズにしています。小学校と中学校の先生が同じ職員室を使い、座席も固定していないので、自然に連携が生まれます」

## 町中に広がる学びの機会

安平町の教育は、学校の外にも広がっている。こちらもきっかけは震災だった。ボランティアの方々が被災した子どもの心のケア活動を行ってくれていて、安平町はこれを継続したいと考え株<sub>(Founding Base)</sub>に協力を依頼した。そこから好奇心や探究心を育む社会教育を実践する「あびら教育プラン」事業が生まれ、遊びで育つ「遊育」、教えない公営塾「あびらぼ」、探究活動を行なう「ワクワク研究所」、子どもたちのアイデアを形にする「ABIRA Talks」の4つの事業が行われている。それぞれ対象年齢は違うが、子どもだけでなく、大人にも関わりしろがある事業だ。たとえば「あびらぼ」は、

学校での教科ではなく、学際的な分野の学びができる塾で、大人も授業を受けることができる。また「ワクワク研究所」で、「大豆から味噌をつくりたい！」という声が出た時には、町内に詳しい人が講師となつて子どもたちに教える「町民ワクワク師匠制度」が設けられている。

「学校で馬についての授業や、町の特産品のメロンを育てるなど、地域に連する授業があり、その道に詳しい町の人が授業を行うこともあります。学びは学校の中だけ、と限定せずに、あびら教育プランの事業と連携すればもっとおもしろいことができる」と思いました」と三上さんは話す。

なぜ教育に力を入れるのか、あらためて三上さんにうかがった。「この町に

は高校が少なく大学もありませんし、働く場所も多いとは言えません。一度は町外に出ることが前提になります。しかし、この町で楽しく学校に通い、町への愛着が湧く教育を行なえば、いずれ戻ってきてここで子育てしよう、この町でくらそうと考える人が増えると思っています。教育に力を入れることは、将来の安平町の担い手を増やすことだと考えています」

この町で学ぶこと、挑戦することの楽しさを知った子どもたちは、どんな未来を切り拓いていくのだろうか。そしてそれは町にどんな変化をもたらすのだろうか。10年後、20年後が楽しみになる町だ。



上／木材がふんだんに取り入れられ、建物の構造もよくわかる。この校舎をきっかけに建築に興味を持つ子が出てくるかもしれない。右／早来学園の各教室には教室名とサブテーマが示されている。文字は子どもたちが書いたものをデザイン的に取り入れ、組み合わせている



教育委員会事務局教育次長の永桶憲義さん。「たくさんの方々の協力でできた早来学園です。開校してから多くの自治体がひっきりなしに視察に訪れていました」と誇らしげだ



右／まなびの図書室。探している本以外の本にも出合えるように、棚が緩やかな曲線を描いている。図書室からは子どもたちの姿を見る 것도できる。下／廊下と境目のないフリースペース。授業で使うこともあれば、学園祭などではイベントスペースとしても活用できる



上／左手がまなびので右手奥の建物が早来学園 左／早来学園の校章。クリエイティブ・ディレクターの鎌田順也さんが作成したふたつの案から、子どもたちに選んでもらった。町のシンボル、菜の花の黄色をキーラインに、希望の手、希望の花をモチーフにしている

行政と企業が手を組み、大人も子どもも一緒に参加した学校づくり

今治・夢スポーツは「次世代のため、物の豊かさより心の豊かさを大切にする社会創りに貢献する」という理念を掲げています。環境教育を実践している「しまなみアースランド」の管理や「しまなみ野外学校」の運営などを行うのは、理念の実現のためであり、どちらも私が昔から取り組んできただからです。

## 昔から関心があつた 環境教育と野外体験

環境問題に关心を持つたきっかけは、大学生の時に読んだ『成長の限界－ローマ・クラブ「人類の危機」レポート』でした。その後、私なりに環境問題を勉強しましたが、世界はなかなか変わらずもやもやしていました。その頃、コンサドーレ札幌の監督に就任して「富良野自然塾」に出合いました。主宰は脚本家の倉本聰さん。ゴルフ場の跡地を元の森に還し、460メートルの道を歩いて地球46億年の歴史を体感したりという環境教育プログラムを実践されています。物語性があるすばらしい内容に私はすっかり魅了されました。インストラクターの資格も取りました。

特に、プログラムの最後に置かれた石碑に刻まれた「地球は子孫から借りているもの」という言葉には強く感銘を受けました。地球は未来を生きる子どもたちから借りているものなので、

# 子や孫の世代に 私たちは何を託すのか

サッカー日本代表の監督を二度務め、日本のサッカー界に大きな足跡を残してきた岡田武史さん。

2014年から愛媛県今治市で、(株)今治・夢スポーツの代表取締役会長として、次世代に向けた環境教育や野外体験教育に力を注いでいる。

汚したり、壊したり、傷つけたりしてはいけないという、ネイティップアメリカンの教えです。この考え方にして、今私たちが直面している多くの課題への答えが自ずと見えてくると思つていい

2010年頃、たまたま今治市でアマチュアのサッカーチームを持つ先輩から、オオタカの巣が見つかった場所を公園にするという話を聞きました。軽い気持ちで「環境教育ができる自然塾にしては?」と言ったところ、「しま

なみアースランド」が完成。14年に私が先輩が持っていたサッカーチームに投資し、主体的にプレーできる自立した選手と自律したチームを育てるためには私が考えた指導法を使って「からサッカーチームづくりを行うと同時に、「しまなみアースランド」の管理を行い、「今治自然塾」を運営することになりました。不思議な縁です。

一方で、11年に「オカダ・インスティテュート・ジャパン(OIJ)」

を立ち上げ、大自然の厳しい環境の中で野外体験プログラムを行ってきました。これは遺伝子工学の世界的権威であった故・村上和雄さんの「人間の眠っている遺伝子のスイッチをオンにすれば、可能性は無限大だ」という説に影響を受けています。これまで人は気候変動や飢餓など過酷な状況を乗り越えてきました。その経験は人間の遺伝子に刻まれているはずですが、便利で安全で快適な社会では、危機を乗り越える遺伝子は力を発揮できずに眠っています。そこで野外体験によつて、眠つてある遺伝子のスイッチを入れるきっかけにしたいと考えました。

最初に実施したのは、日本とカナダの大学生を2人1組にし、10日間かけてカナダの川をカヌーで下り、ロッキーハンマー山脈を踏破するプログラム。インストラクターも一緒に、「今日どこに泊まるか?」から始まり、すべてを

## 社会を生きるために ロールモデルのない

学生たちに任せました。言葉の壁や行程の過酷さ、野外での経験不足などで、けんかが起きたり、泣き出す学生もいました。しかし10日間を乗り越えた学生たちの目の輝きは全然違っています。これが遺伝子にスイッチが入ることなのだと感じたのです。

瀬戸内海に面し、山も川も沢もある今治市に来て、「どんな野外活動もできるじゃないか」とワクワクしました。

そこでつくったのが「しまなみ野外学校」です。若い世代が対象ですが、最近では企業の研修も受け入れています。

た「今治里山スタジアム」を中心に、衣食住を補完しあい、田んぼや畑があり、障がいのある人が働く場があり、どんどん緑が増えていく、そんな共助が実現できる「バリビーリングビレッジ」を構想しています。

地球は有限です。みんなが成長を続ければ、いつかパンクしてしまうのは目に見えています。そうならない環境を子どもたちに残し、子どもたち自身の生きる力を育み、ともに助け合う社会をつくる。それを今治で実現したいんです。そう話すと途方もない夢に聞こえるらしく、「また岡田のホラが始まつた」と言う人もいますが、これが私たちが後世に残していくかなければならぬものだと思います。

おかげで、中学生から社会人までサッカー選手として活躍。その後、クラブサッカーチームのコーチを務める。1997年日本代表監督となり史上初のW杯本戦出場を実現。Jリーグのチーム監督を経て、2007年から再び日本代表監督を務め、10年W杯南アフリカ大会でベスト16に導く。14年株今治・夢スポーツに出資し、FC今治のオーナーに就任。サッカー以外に、環境教育や野外体験教育、起業家育成などの社会の課題を解決するための事業を展開している。

そして、先の見えない未来は一人で二ティが必要です。そこで今年完成し

(株)今治・夢スポーツ 代表取締役会長

岡  
一  
田  
武  
史



この日の「moricco」に参加したのは、松山市内の木の実幼稚園の年長組。子どもたちは、森に入る前に森にいる生き物についての説明を聞く。森の中では虫を探したり、急な崖を元気に登ったり、川に入ってカニを探したり。自分の興味に従って自由に遊ぶ



右は「しまなみアースランド」でインストラクターを務める久保田真依さん。「前職の保育士とは違う子どもとの関わり方ができます」。中央は執行役員で、「しまなみ野外学校」も担当する木名瀬裕さん。「口を出さずに、子どもたちの成長を見守る。忍耐が必要ですが感動もある仕事です」。左は「しまなみ野外学校」ディレクターの服部真帆さん。「無人島でのキャンプなど、ここにしかないプログラムが魅力です」

しまなみアースランド

<https://s-earthland.com>



しまなみ野外学校

<https://note.com/shimanami>



今治市の檜原山(ならばらさん)山腹にある「ぼうしろの森」で行った「しまなみ野外学校」の「しまなみKIDS CAMP」。ぼうしろの森は野外学校の主要フィールドのひとつ。今回は市内の小学4~6年生が集まり、1泊2日で「ひみち基地」をつかった。ロープ、ブルーシート、ノコギリなどの工具はあるものの、それ以外はその場にあるものを利用して完成させる

をフィールドにしているのが「しまなみ野外学校」だ。プログラムは多彩で、日帰りや1泊2日のキャンプから、瀬戸内海の無人島に渡って過ごす「島の冒険キャンプ」約130キロを歩く「瀬戸内アドベンチャーア」などがある。参加者は、小学校低学年から高校生くらいまでが中心だ。「子どもたちに伝えたいのは、お互いに助け合い、協力していくをつくること。基本的なことは教えていますが、それ以外はできるだけ口を出さずに、子どもたち自身が考え、行動することを待ちます」と「しまなみ野外学校」を長く担当してきた執行役員の木名瀬裕さんは語る。

ディレクターの服部真帆さんは「自然の中という非日常の空間で、食べた

り眠ったりという日常の営みを行うには、仲間のことを考え、自発的に行動しなければものごとが進みません。それを子どもたちは学んでいきます」と話す。

これらの活動は、「子どもたちの遺伝子のスイッチをオンにしたい」という同社会長の岡田武史さんの思いから始まっている。そしてそのスイッチは大人や他人が押すことはできない、と木名瀬さんは語る。「スイッチは自分で入れるしかないですし、入れるきっかけは10人いれば10通り。私たちはそのきっかけとなる種を蒔いているようなものです。芽を出し、育てていくのは、子どもたち自身の力です」

今治・夢スポーツが運営する今治市内の公園「しまなみアースランド」。

整備された公園内を少し奥に進むと、

小川が流れ、木々に囲まれた場所があ

る。自然体験型環境教育プログラム

「moricco（もりっこ）」のフィールド

だ。そこでできるのは、川遊びや虫捕

り、崖登りや木登り、ブランコやシ

ーソーなど。初めは尻込みする子もいる

が、自然をそのまま生かした遊びに、

いつの間にかみんな夢中で、駆け回っ

ている。

「公園には一般向けに『今治自然塾』の環境教育プログラムがありますが、小さなお子さんにも自然に触れてほしいと思い始めました」と「しまなみアースランド」で環境教育のインストラクターを務める久保田真依さん

は語る。

森に入る前に子どもたちに伝えるの

は「森にはたくさんの生き物がいて、自分たちはそこにおじやまさせてもらっている」とことと、「昆虫など生き物には優しく『お友だちになつてね』と接する」ということ。「今治でも自然の中で遊んだ経験のない子が増えています。環境問題の最初の一歩は、人や自然を思いやり、考えることができます。そのためにもまず生き物につながります。そのためには生き物に触れて、興味をもつてもらいたいです」と久保田さんは語る。

### 自然の中で自ら考え行動することを学ぶ

今治から瀬戸内海周辺の海や川、山

岡田武史さんが会長を務める(株)今治・夢スポーツが取り組む環境教育や野外体験教育。自然の中で遊び、体験することで、子どもたちは様々なことに気づき、成長する。

# 自然から学び、成長の糧に

岡田武史さんが会長を務める(株)今治・夢スポーツが取り組む環境教育や野外体験教育。

自然の中で遊び、体験することで、

子どもたちは様々なことに気づき、成長する。



# 次々に笑顔がつながる イオンの子育て支援

イオンは子育て世代のお客さまの様々なニーズに応え、子どもの成長をサポートするサービスを提供している。

2023年4月、イオンモール柏2階にオープンした「キッズフロア」は、子どもが楽しく遊ぶだけではなく、子育てをする親にも優しい多彩なサービスが集まっている。親から子、子から親へ笑顔をつなげたい、という株式会社イオンファンタジーの新しい試みだ。

平日の夕方、イオンモール柏の「キッズフロア」にある学童保育施設「楽童まなべるあそび場」(以下、楽童)には、足早に子どもを迎えて行く保護者の方の姿がある。楽童の先生から子どもの様子を聞き、親子は楽しそうに話しながら家路につくのがいつもの風景だ。樂童は株式会社イオンファンタジーが初めて手がける学童保育施設。樂童がある「キッズフロア」は、子どもとその家族を対象にしたサービスが集まっている複合フロアで、ほかに子ども向けのアミューズメントが揃う「モーリーファンタジー」や子ども向けの「プレイグラウンド」「スキッズガーデン」、ラウンジがある。

「弊社は『こどもたちの夢中を育み、『えがお』あふれる世界をつくる。』と

いうパーソナルを掲げ、お子さま向けのサービスを提供しています。複合フロアを構想する中で、子どもたちにもつと笑顔になつてもらうためには、親も



体を動かすアクティビティコーナーや、ごっこ遊びができるなりきりタウン、世界から厳選した知育玩具で遊べるトイコーナー、クリエイティブな遊びを体験できるアートボンなどがある「スキッズガーデン」。3歳～小学校2年生までは子どもだけで遊ぶことができ、楽童に通う子どもは、学童生活のアクティビティの一環として、無料で遊ぶことができる

笑顔になることが必要なのはと考えました。親から子へ、子から親へ、親子の間で『笑顔の連鎖』を起こすために、親の子育ての負担を軽減し、時間や心にゆとりが生まれるサービスを提供したいと考えています」とキッズフロアをプロデュースした同社エデュテイメント事業開発本部業態開発グループ



ラウンジには、子育て関連の書籍や雑誌が備えられ、ほっとできる空間だ

(株)イオンファンタジー  
エデュテイメント事業開発本部  
業態開発グループ  
GMS複合・大型区画プロジェクトマネジャー  
**鮎澤 大輔**  
あゆ澤 だいすけ●大学で幼児教育を専攻。アミューズメント施設運営企業(株)ファントワードに入社し、栃木県、群馬県、東京都などで店長を歴任。2015年(株)イオンファンタジーと合併し、モーリーファンタジーのストアマネジャー、支配人などを経て21年から現職。



(株)イオンファンタジー  
エデュテイメント事業開発本部  
業態開発グループ  
GMS複合・大型区画プロジェクトマネジャー

## 鮎澤 大輔

あゆ澤 だいすけ●大学で幼児教育を専攻。アミューズメント施設運営企業(株)ファントワードに入社し、栃木県、群馬県、東京都などで店長を歴任。2015年(株)イオンファンタジーと合併し、モーリーファンタジーのストアマネジャー、支配人などを経て21年から現職。

## 働く人の育児と仕事の両立を支える

イオングループでは、出産・育児休職からのスムーズな復職や子育てと仕事の両立をサポートするために、イオングループが運営する31か所の事業所内に「イオンゆめみらい保育園」を設置している。イオングループ各社の従業員やイオンに出店している専門店企業で働いている方、そして地域の子育て世代の方々が主に利用しており、小売業やサービス業に携わる利用者の働き方に対応するために、原則365日



開園で、保育時間も午前7時から午後10時までとなっている。設置されている事業所によっては、病後児保育(病気の回復途中だが、通常の集団保育は難しい子どもを預かる保育サービス)や一時保育にも対応している。

さらに、イオングループの事業所内保育園と、提携している企業主導型保育園「ニチイキッズ」(ニチイ学館運営)91園を合わせれば、全都道府県に保育枠を確保していることになる。利用者からは、「送り迎えが楽」「子どもに何かあった時に対応しやすい」「職場の繁忙に合わせて勤務できる」など好評だ。

自然に英語が身に付きます」と語る。またラウンジはお迎えの前に保護者がひと息入れられる場所にもなっている。大村さんもよく利用していて、「仕事の気分を切り替えるのにいいので、お茶を飲んだり、雑誌を読んだりしています」と話す。

今後は、予防接種など未病対応を中心としたクリニックが開業し、サービスがより充実する。「キッズフロア」の人気も上々で、他の地域からも「同じものを設けたい」とオファーがきていると鮎澤は言う。「地域によって求められるサービスは異なります。しっかりと地域のニーズを捉え、それに応えられるものを提供していきたいです」

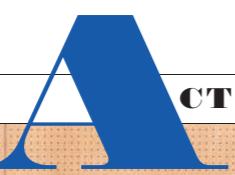
心にしたクリニックが開業し、サービスがより充実する。「キッズフロア」の人気も上々で、他の地域からも「同じものを設けたい」とオファーがきていると鮎澤は言う。「地域によって求められるサービスは異なります。しっかりと地域のニーズを捉え、それに応えられるものを提供していきたいです」

プロの鮎澤大輔は語る。

フロアの構想を練るにあたり、子育て世代へ調査を実施したところ、学童保育施設へのニーズが高いことがわかった。そこで、学童保育施設を1都3県で運営し、行政や企業からの委託も受けている(株)ウイズダムアカデミーと提携して楽童を開業した。利用者の大村仁美さんは、自宅から近いこと、充実した内容に魅力を感じ、4月から娘の帆花さんを通わせている。

「遊びを通して英語を学ぶカリキュラムや習い事もできる点が気に入っています。娘は国語と算数を学ぶプログラムが楽しいようです。楽童の日は、宿題もしっかりと終えてるので、親としては安心ですね」

楽童に通う子どもは、隣接する「スキッズガーデン」で遊ぶことができる。鮎澤は、「楽童の英語の先生が子どもたちと一緒に遊ぶことで、子どもたちは安心できます」



「春日部おもちゃの病院」のメンバーのみなさん。最後列の左から2人目が代表の大滝徹さん。この日は「春日部第1児童センター エンゼルドーム」で開院していた。テーブルの上にあるのは修理中のおもちゃ

## 壊れたおもちゃ、私たちが治します!

「壊れたおもちゃを無料で治します」。そんな呼びかけで、地域の児童センターやイオンモールの一角を使って「おもちゃの病院」を“開院”しているのが、埼玉県春日部市のボランティア団体「春日部おもちゃの病院」だ。週に1回のペースで開院している。

スタートしたのは2004年。現在のメンバーは70代を中心に24名で、そのうち4名が女性だ。団体の設立者で代表を務める大滝徹さんは立ち上げのきっかけについて、「もともと市内に障がいがある子もない子も楽しくおもちゃで遊べるようにと作られた『おもちゃ図書館』があり、そこのおもちゃを修理できる人を探していると知って、参加したのが始まりです」と話す。大滝さんは小学生の頃から模型作りや機械いじりが好きだったそうで、「自分



おじいさんとお孫さんが壊れたおもちゃと来院。まずは受付で症状を聞き、お預かりとなる



毎月11日の「イオン・デー」にレジで発行される黄色いレシートを、応援したい地域の団体のBOXに投函。集まったレシートの合計金額の1%相当の品物をイオンが該当団体に寄贈します。支援が必要な団体と、応援したい地域のお客さまをつなげる仕組みです。

ならできるかも」とトイ(おもちゃ)ドクターにすることを決めた。

「今いるメンバーもだいたい同じような感じで、子どもの頃、家の時計を分解してはまた組み立てて遊んでいた、という人が集まっています(笑)。女性のメンバーにはねいぐるみや人形の縫製修理などを担当してもらうことが多いです。みんな、手を動かしたり、機械いじりが好きなので、修理依頼は大歓迎です。また、不要になったおもちゃを引き取って、その中の使える部品を修理用パーツとして再利用したりもします」と大滝さん。

「私たちでは修理できないこともあるのですが、『音が鳴らなくなった』というような故障は中で断線しているだけのケースが多く、ハンダ付けで治せます」。その場で修理できない場合は預かって、時間をかけて作業を行う。

おもちゃが無事治り、それを渡す時に依頼者が見せてくれるうれしそうな笑顔にやりがいを感じると大滝さんは言う。

「おもちゃを持って来るのは子どもから高齢者まで幅広い年齢の方々です。高齢者は会話ができる電子人形を持ってこられたりしますよ。『ものを大切にしたい』という思いを持っている方は今もたくさんいます。その気持ちに応えていけるようこれからも活動していく」と大滝さんは教えてくれた。



修理が完了したキャラクター型の目覚まし時計を受け取りに来た親子(右の2人)と大滝さん。目覚まし音が鳴らなくなっていたが復活した



「イオン 幸せの黄色いレシートキャンペーン」では文房具などの寄贈を受けている。特に、様々なタイプのものが必要となる電池に多く活用されている



「きじま」を代表する「海幸盛(うみさちもり)」は10種類以上の旬の魚を堪能できる。中でもイカの活け造りは生簀から揚げたばかりで透明な身が美しい。この日のイカは山口県・角島の剣先イカ。ほかにアカハタ、アワビ、ボタンエビ、カマス、トビウオなどが並ぶ



前菜盛り合わせ。素材の中心は魚介類だが、自然放牧で育てられた鹿児島県の里山牛を使ったローストビーフも味わえる



店内のイメージは「蔵」。明治時代のどっしりとした重厚な扉や繊細な細工の建具を使いつつ、アンティークの照明などもあり横浜のハイカラな雰囲気も出している



「きじま」は水産物の水揚げ以降の加工・流通過程の管理認証、CoCを取得。また、日本の和食店では初のFSC®プロジェクト認証<sup>※3</sup>を取得した

※1 水産資源や環境に配慮し、適切に管理された持続可能な漁業で獲られた水産物へ与えられる認証

※2 環境と社会への影響を最小限にした責任ある養殖の水産物へ与えられる認証

※3 一度しか作らないものや連続する類似プロジェクトについての認証で、たとえば、建造物、家の一部、ボートの認証などが挙げられ、土木工事やイベントのインフラも対象となる

大いなる哲学を持ち、エシカルな食の場を提供する

Sustainable Restaurant

Vol. 19

2020年6月、横浜・みなとみらいにオープンした「日本料理きじま」の店舗のひとつで、サステナブルに徹底的にこだわっている。



みなとみらい店の店長を務める岩谷さん。「きじま」に入って13年のベテランで、ソムリエの資格も持つ

**きじま みなとみらい店**

①横浜市中区北仲通5-57-2  
北仲ブリック&ホワイト 2F

☎045-264-8006

②平日11:00~15:00(L.O. 14:30)、

17:00~22:00 (L.O. 21:00)

土・日・祝日11:00~22:00 (L.O. 21:00)

<https://kijimagroup.co.jp/>

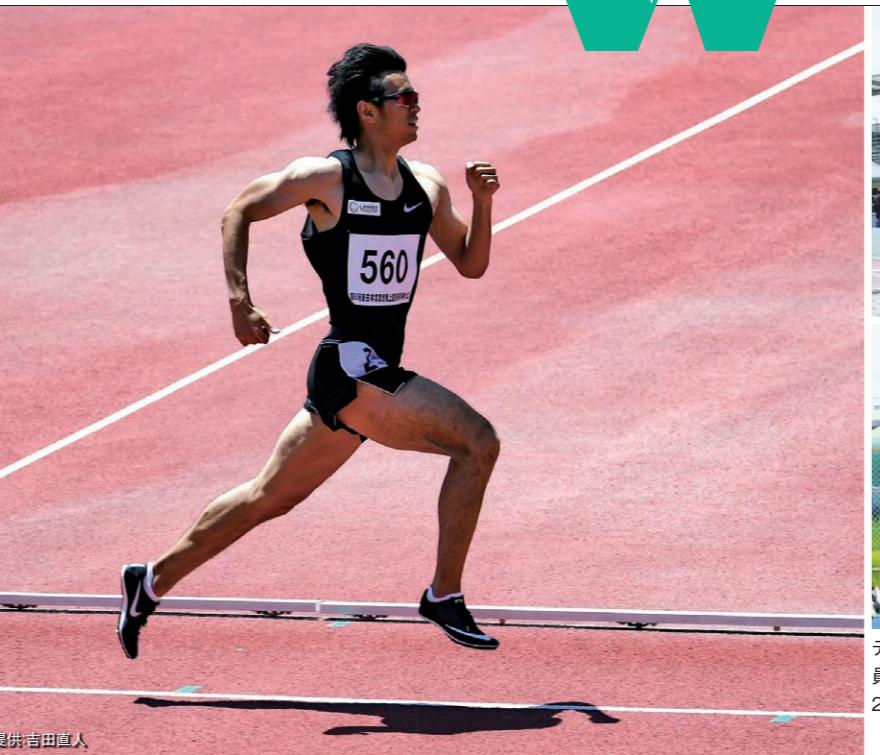
※最新の情報はHPにてご確認ください

16

イオンは  
パラスポーツを  
応援  
しています。

見ごたえあふれるパラスポーツの世界

デフ陸上



提供:吉田直人



デフ陸上のアスリートで、ライフネット生命保険株式会社の社員でもある岡部祐介さん。同社初のアスリート社員として2016年に入社。陸上をメインに一般業務も担当している

## デフリンピック、日本で初開催。十種競技で出場を目指す

2025年11月、東京で聴覚障がい者の国際スポーツ大会・デフリンピック夏季大会（デフ=Deafは英語で「耳が聞こえない」という意味）が開催される。オリンピック・パラリンピック同様4年に1度、夏季と冬季に開催される大会で、第1回は1924年にフランス・パリで開催。東京での大会は100周年の記念大会となり、日本初開催となる。世界70~80か国・地域から約3000人の選手が参加する予定だ。

そのデフリンピックに、岡部祐介さんは陸上の十種競技で出場を目指している。生まれつき「両側感音性難聴」の障がいがあり、耳が聞こえない。陸上はろう学校に転校した中学2年から始め、2013年ブルガリア、17年トルコでのデフリンピックに4×400メートルリレーなどで出場。22年秋から十種競技に転向した。

「身体の欠損ではないため、デフ陸上と健常者の陸上で競技方法やルール上の違いはありません。ただ、音が聞こえないということはスタートのピストル音が聞こえないということです。光で

合図をしてくれる『スタートランプ』があればいいのですが、通常は審判に体をたたいてもらったり、旗による合図を見たりします。小学生の頃の徒競走では、周りが走り出すのを見てから走るのでもう勝てずに悔しい思いをしました」と話す。

現在取り組む十種競技は、100メートル走や棒高跳び、砲丸投げなど「走る」「跳ぶ」「投げる」種目を計10種、2日間で行い、合計得点を競うものだ。「選手ごとに得手、不得手の種目があるので、どこで得点を伸ばすかなど戦略を練ります。そんなところにも注目すると観戦がより楽しめると思います」と岡部さん。

デフリンピックには海外の選手も大勢参加する。応援の方法を尋ねると、「タオルを振ってくれたり、『がんばって』というような簡単な手話で応援していただけととてもうれしいです。競技場で選手と観客席の距離が離れ、声が届かないときでも、身振りや手話の応援は見えるんです。実は声援よりも遠くまで応援の気持ちを伝えることができるんですよ」と教えてくれた。

「私が活躍することで、耳が聞こえない子どもたちに『デフ陸上』をより広く知ってもらえると思って。彼らに夢や希望を与えられる存在になるのがんばっていきます」と目標を話してくれた。



岡部さんは1987年生まれ、秋田県出身。身長186センチ。現在、専門とする十種競技とは、1日に100メートル、走り幅跳び、砲丸投げ、走り高跳び、400メートル、2日目に110メートルハードル、円盤投げ、棒高跳び、やり投げ、1500メートルを行い、それぞれの記録の合計得点を競う競技

## セゴギキムチチヨンゴル（牛肉と豆腐のキムチ鍋）

イオンが取り組む「食と健康」 シェフパートナーズ料理塾より

セゴギは日本語で牛肉、チヨンゴルは鍋という意味。  
家庭で再現！ シェフのヘルシーレシピ ⑯  
セゴギとキムチと一緒に鍋で楽しむ韓国風のすき焼きです。  
牛、豆腐、キムチを醤油やコチュジャンを使った合わせ調味料、  
ヤニヨムで煮込む韓国風のすき焼きです。  
浅めの鍋を使い、食材を美しく並べて見た目も楽しみながら  
手軽にできる冬のおもてなし鍋を、韓国料理の第一人者  
ジョン・キョンファさんに教えてもらいました。



KOREAN COOKING  
キョンファスタジオ  
東京都府中市府中町1-7-2  
さくら食品館4階  
☎042-368-8887  
<http://www.krcook.com>



KOREAN COOKING  
キョンファスタジオ  
料理家 ジョン・キョンファさん  
同料理教室主宰。四十数年にわたり  
朝鮮半島の食文化の普及に尽力。韓  
国ドラマ『宮廷女官チャングムの誓  
い』では日本語訳版の料理監修も担当  
した。「きょうの料理(NHK)」をはじめ、  
テレビ、雑誌、講習会などを通しておい  
しくてヘルシーな韓国料理をわかりやす  
く紹介。著書多数。

豆腐チゲ、キムチチゲなど韓国で鍋料理というと「チゲ」を連想する方が多いと思います。「チゲ」は鍋で作りますが、鍋ごと出すとは限らない料理なので、実際には日本の汁物のイメージでしょうか。これに対して「チヨンゴル」は日本のすき焼きと同じように、口の広い浅型の鍋を使い、生の食材を入れて煮ながら食べる鍋料理を指します。また、すき焼きと違つて、下ごしらえした具材をきれいに並べ、調味料を加えてから火にかけて煮ます。そもそも宫廷料理だったのを見た目の美しさにこだわるものも特徴で、すき焼きと違つて、下ごしらえした具材をきれいに並べ、調味料を加えてから火にかけて煮ます。そんな背景も踏まえつ、家庭でも簡単にできるように考えたのがこのキヨンファ流セゴギキムチチヨンゴル。キムチ、牛肉、豆腐……と順に置いていくだけで簡単にきれいに盛り付けられます。すき焼き鍋や浅い鍋がなければフライパンでも構いません。一人分なら量を減らし、卵焼き用の鍋で作ることもできます。ヤンニヨムを多めに作つておいて肉や具材を足しながら食べてもよいですし、キッチンで煮込んでから食卓に運んでもよいでしょう。

辛いのが苦手な方はヤンニヨムのコチュジャンを減らし、その分みそを増やして調整してください。とにかくご飯がすすむので、多めに炊いておくことをお勧めします。

### セゴギキムチチヨンゴル（牛肉と豆腐のキムチ鍋）

材料（2~3人分）

牛薄切り肉300g、キムチ300g、豆腐1丁、玉ねぎ1/2個、長ねぎ1本、えのき1パック、春菊1/2束、水約300cc、ごま油適量 [ヤンニヨム用調味料]しょうゆ大さじ5、コチュジャン大さじ2、砂糖大さじ2、すりごま大さじ1、みそ大さじ1/2、おろしにんにく小さじ1、粉唐辛子少々

作り方

①キムチ、豆腐（厚さは1cm）を4~5cmの長さに切り、牛肉は三つ折りぐらいにし、豆腐と大きさを揃える。



上／陸上トラック競技で使われるスタートランプ。スタート地点の地面に置かれ、下を向いたクラウチングスタイルのまま、合図を見ることができる。右／手話でインタビューに答える岡部さん。手話以外でも、「身振り手振りや、筆談でも会話はできるので、積極的にコミュニケーションをとってもらえるとうれしい」と話す